

2018年(平成30年)12月22日(土曜日)

## 三島のブランド協への補助金

# 市長、曖昧回答繰り返す

三島市が事務局を務める「市地域ブランド推進協議会」への市の補助金交付を巡り、豊岡武土市長は二十一日の記者会見で、十一月末の市議会一般質問での答弁が虚偽ではないかとの指摘に対して、「協議会の会長(諏訪部敏之氏)に聞いて」と応じるなど終始曖昧な回答を繰り返した。補助金額の引き上げに必要な市長協議については「記憶は定かではないが、口頭で了承したという認識だ」と述べた。(佐久間博康)

補助金は「一事業当たり五」審査会の開催が条件。さら

十万円が上限で、交付には「に上限を超えるには市長が

特別に認める必要がある。だが、市は二〇一六年九月十四日に「審査会を実施し、審査員了承済み」として二百万円の交付を決定した。関係者によると、実際には審査会も市長協議も行われていないという。

今年十一月末の市議会一般質問で、市側は「記録はないが、当時の職員に聞いて

た」として、「審査会はしていないが、審査員がいた会議で話し合い、了承を得るなどしたので、審査会がなされたとみなした」「市長協議は一六年九月二十六日に行った」と答弁した。

審査員だった協議会関係者が「補助金交付の話し合いはなかった」と証言していることから、議会答弁は虚偽でないかとただす質問に対し、豊岡市長は「証言した人が口頭で了承したことを記憶していないこともあり得る」と話した。この発言について証言者は「あ

り得ない話だ」と反論し、諏訪部会長は「関係者が刑事告発されており、警察に判断を委ねたいのでノーコメント」と、本紙の取材に答えた。二百万円の補助金交付が特例措置にもかかわらず、豊岡市長は市長協議について「軽微なことは記録を取らないこともある。ブランド協議会で話し合っただと聞いたので印鑑を押す決裁は必要ないと判断した」と述べた。

日詰一幸・静岡大人文社会科学学部教授(行政学)は三島市の市長協議のあり方

を「稟議を立てて、決裁をしていないのは、ずさんでおかしな手続きだ」と批判している。